

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20098

研究課題名（和文）日本におけるケアとジェンダーを考慮に入れたマクロ経済モデルの構築と政策評価

研究課題名（英文）Construction of care-centered gender-aware macromodelling and policy evaluation in Japan

研究代表者

山本 由美子（Yamamoto, Yumiko）

岡山大学・グローバル人材育成院・准教授

研究者番号：10830185

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、匿名データ等を用いてケアとジェンダーに考慮した社会会計マトリックス（Social Accounting Matrix, SAM）を構築し、有償ケア労働者の実状について、放課後児童クラブ支援員の労働環境について調査した。無償・有償ケア労働ともに、女性は男性より長い時間を費やしているにも関わらず、女性の平均賃金が男性より低いいため、所得ベースに換算すると女性労働がもたらす経済効果は過小評価となる。大卒女性の非正規雇用などにより人的資本への投資が経済に還元されておらず、ケアワーカーや女性の正規雇用や処遇改善はジェンダー平等だけでなく、高齢化社会の日本経済成長にプラスであることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでも『社会生活基本調査』で得られた無償家事・ケア労働時間の貨幣評価など、内閣府経済社会総合研究所によるマクロ推計はあるが、産業連関表などのデータも用いることで経済統計を結びつけ、また、無償労働と有償労働の関係を労働時間と推計所得で見たり、労働時間と所得の関係を産業別、性別、学歴別、世帯構造別等で分析した。日本のデータを用いてケアとジェンダーに考慮したマクロ経済モデルは構築されたことがなく、フェミニス経済学の、特にマクロ経済学分野やモデリングの発展に向けた第一歩となる。

研究成果の概要（英文）：This study constructed a gender- and care-sensitive Social Accounting Matrix (SAM). To supplement the macroeconomic-level discussion, the study also investigated the current working conditions of paid care workers, specifically after-school program staff. Women spend longer hours than men in both unpaid and paid care work. Since women's wages are lower than men's, the economic effects will be underestimated when we convert these findings to a monetary basis. Investment in women's human capital development hasn't led to economic growth as expected. Hiring care workers full-time and at higher wages is necessary for gender equality and the economy of the aged society.

研究分野：フェミニスト経済学

キーワード：ジェンダー ケアエコノミー

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成31年2月に主催した国際シンポジウム『ケアエコノミー 持続可能な開発目標達成へ向けて』において、日本におけるケアエコノミーの課題を明らかにした。介護や看護、育児、家事など、主に女性が家庭で行う無償ケア労働は、第三者による代替が可能であるにも関わらず、これらの活動が市場を介さずに行われるため、国民経済計算や労働統計に反映されていない。日本における無償労働貨幣評価額（2016年）の対名目GDP比率は18～26%と極めて高いが、福祉や保育などマクロ経済統計に把握されている経済活動に、家庭での無償ケア労働を組み込んだ、有償・無償労働を包括的にとらえたケアエコノミーの経済規模は不明確である。そのため、ケア産業への公共投資効果や、雇用創出による経済効果などを把握することが難しい。本研究は、有償・無償ケア労働を包括的に含むケアエコノミーの経済規模を明らかにし、ジェンダー別の分析を行うことで、ケアワークの男女間および世帯（無償）・市場（有償）間の分配や、労働時間と所得の関係の現状を解明するものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ジェンダーの視点を考慮に入れたケアエコノミーの規模を把握するためにもマクロモデルを構築し政策評価を行うことである。「公共のサービス、インフラおよび社会保障政策の提供、ならびに世帯・家族内における責任分担を通じて無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する」ことが2015年持続可能な開発目標（SDGs）のターゲット（SDG5.4）に採択された。無償ケア労働の経済および社会への貢献を考慮するだけでなく、包括的にケアエコノミーを分析することは社会インフラ（対物質的インフラ）の重要性の解明に貢献する。

3. 研究の方法

研究期間（令和2年度、3年度、4年度、5年度）中、研究代表者は、前述の研究目的を明らかにするために、文献研究と実証研究を遂行した。文献研究は、これまでの海外での取り組みに焦点を当てて、取り組んだ。マクロ経済モデリングの理論や分析手法についての文献を考察した上、米国アメリカン大学らが2021年に（オンライン）開催した「ケアエコノミーとマクロ経済モデルに関するワークショップ」に日本から唯一参加し、マクロ経済モデリング構築の手法を学ぶと同時にファシリテーターとして貢献した。海外の様々な実証研究を考察した後、韓国の先行研究を日本のモデル構築に応用した。

具体的には、政府統計を中心に、ケアとジェンダーに考慮した社会会計マトリックス（Social Accounting Matrix, SAM）を構築した。無償労働時間を把握するために必要な「社会生活基本調査」は5年に1度実施されている。最も新しい、入手可能なマイクロデータ（匿名データ）が平成28年度であったため、分析対象のデータを平成28年度（2016年）に設定し、産業連関表、労働力調査等のデータを収集した。

また、上記のマクロ経済分析を補完するためにも、ミクロレベルのケアエコノミーの調査として、有償ケア労働者の実状を把握を目的に、放課後児童クラブ（学童保育）支援員の労働環境について調査した。学童保育を選んだ理由は、ケア労働者の中でも、保育士、看護師、介護福祉士などの調査や統計データは多く、また保育分野においても、保育所や幼稚園においては関連法の整備も早く、待機児童問題もあり人員確保のためにも所得格差縮小の動きはあったが、学童保育に関しては設立の歴史が比較的短いことから実状が明らかではなかった。文献研究の他、関係者のインタビュー調査も2022年から2023年の間に計4回実施した。

4. 研究成果

経済学では、所得は、消費や貯蓄といった経済活動を可能にするために重要な要素として算出されるが、時間は所得を得る機会（労働）に費やす要素として通常可視化されない。他方、フェミニスト経済学では、時間は人々が平等に持つ資源であり、性別による無償ケア労働の負担（時間）の違いが、女性の労働参加率を左右することから、所得との関係も含めて可視化（SDG5.4）を重要とする。

まず有償労働については、性別職務分離もあり、ケア産業に従事する女性の割合は男性より多い。女性の就業者数が最も多い医療・福祉産業では、男性の3倍近い数の女性（約600万人）が働いている。総労働時間で見ても女性は男性より長い時間働いているが、医療・福祉産業における女性の総労働時間数は、男性比の2.4倍程度に下がる。これは、女性雇用者の多くが短時間労働者であることによる。さらに産業平均賃金をもとに推計した総所得においては、その比率はさらに下がり、医療・福祉産業における女性の総所得は男性の約2倍である。これも、昇給の機会が少ない、あるいは平均時給が低い有期雇用者の割合が女性で高いことが原因である。

医療・福祉産業、特に保健衛生・福祉・介護分野における付加価値の9割以上を雇用者報酬が占めており、少子高齢化社会におけるこの分野の発展には、多くが女性であるケアワーカーの正規雇用の割合を高め、処遇改善を図ることが不可欠であることが確認された。これはジェンダー平等を含む持続可能な経済社会の構築の手段といえる。（研究成果：学会発表①、②、③、ワーキングペーパー④、⑤）

無償労働を含む包括的な労働時間と所得等の関係においては、単身者（15-64歳）でも女性の有

償労働時間は男性より少し短い、家事労働に費やす時間が長いため、余暇に費やす時間は男性より少ない。理由として、所得の低さから家事等を代替するサービス、例えば外食や中食、を利用しづらいことが考えられる。同様の傾向は高齢単身世帯でも一部見られる。

単身ではない女性の世帯主は、有償労働に従事する時間が長く、加えて家事、育児、介護など無償労働に従事する時間も長いため、一人当たりの余暇の時間はさらに減少する。特に0-9歳児のいる世帯（世帯主15-64歳）では、男女の世帯員がともに、常勤・非常勤に関わらず、有償の仕事をしているにもかかわらず、家事・育児は女性の負担であることが顕著にわかる。学歴が高卒以下で常勤雇用の女性世帯主や、高学歴で常勤雇用の配偶者女性は、家事も育児も一手に担い、余暇が週1時間程度しかない。高齢女性が同居している場合は家事の一部を負担しているが、0-9歳児のいる勤労世帯は保育所等の利用が可能である。仕事と子育ての両立が難しさに、主に家庭における無償労働が女性に偏っていることが問題であると確認できた。学童保育の待機児童ゼロはケア産業発展の課題であるが、ケア産業以外の改革も必須で、特に男性の長時間労働の是正、性別役割分担の解消などが求められる。研究成果：学会発表ワーキングペーパー⑥)

これまで英語による発表が多く、日本の事例を海外に紹介してきた。分析手法として韓国の先行研究を参考にしたこともあり、今後はこの研究成果を、まずは韓国の研究を行った研究者らとの共同で比較研究に発展させていきたい。加えて、昨年国際学会で発表した際、タイやモンゴルの研究者も同様の研究に着手したと知った。アジアの共同研究に発展させていくことも視野に入れて成果を論文等で発表していく。

(1) 学会発表（計3件）

- ① 山本由美子、「エッセンシャル・ケアワーカーの待遇改善に向けて―放課後児童クラブ支援員を事例に―」、日本フェミニスト経済学会 2021 年度大会（オンライン参加）、2021 年9月3日。
- ② Yamamoto, Yumiko, “Estimating the Paid Care Sector in Japan and the impact of COVID,” 30th Annual Conference of International Association for Feminist Economics, June 29, 2022.
- ③ Yamamoto, Yumiko, “A Gender- and Care-sensitive Social Accounting Matrix (SAM) for Japan,” 31st Annual Conference of International Association for Feminist Economics, July 8, 2023.

(2) ワーキングペーパー（計3件）

- ④ Yamamoto, Yumiko, “Macroeconomic Policy and its Potential for Valuing, Reducing, and Redistributing Poor Women’s Unpaid Labour,” submitted to the 68th Session of the United Nations Commission on the Status of Women (UN CSW68) ‘Accelerating the Achievement of Gender Equality and the Empowerment of All Women and Girls by Addressing Poverty and Strengthening Institutions and Financing with a Gender Perspective,’ and presented online on October 3, 2023. [招待]
- ⑤ Yamamoto, Yumiko. “A Gendered Social Accounting Matrix for Japan.” March 2024.
- ⑥ Yamamoto, Yumiko. “Composition of Unpaid Care Work by Household Types, Education, and Gender.” March 2024.

(3) その他（計3件）

- ⑦ Yamamoto, Yumiko. “Estimating Unpaid Care Sector: An Illustration,” facilitator at the Care Work and the Economy with Gender-Aware Macroeconomic Models (CWE-GAM) Intensive Virtual Course in Gender-Sensitive Macroeconomic Modeling for Policy Analysis, July 1, 2021. [招待]
- ⑧ Yamamoto, Yumiko. “Paid Caregivers and the Market for Care,” and “Social, Labor and Care Policies,” facilitator at the CWE-GAM Intensive Virtual Course in Gender-Sensitive Macroeconomic Modeling for Policy Analysis, July 2, 2021. [招待]
- ⑨ Yamamoto, Yumiko. “Fiscal Space and Mobilizing Financing for Strategies to End Women’s Poverty,” presented at the Asia-Pacific Consultation on the UN CSW68, February 6, 2024. [招待]

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1 . 発表者名 Yumiko Yamamoto
2 . 発表標題 Estimating the paid care sector in Japan and the impact of COVID
3 . 学会等名 International Association for Feminist Economics 30th Annual Conference（国際学会）
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 山本由美子
2 . 発表標題 エッセンシャル・ケアワーカーの待遇改善に向けて ―放課後児童クラブ支援員を事例に―
3 . 学会等名 日本フェミニスト経済学会
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Yumiko Yamamoto
2 . 発表標題 A Gender- and Care-sensitive Social Accounting Matrix (SAM) for Japan
3 . 学会等名 International Association for Feminist Economics 31st Annual Conference（国際学会）
4 . 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Yamamoto, Yumiko. “ Macroeconomic Policy and its Potential for Valuing, Reducing, and Redistributing Poor Women 's Unpaid Labour.” Working paper submitted to the 68th Session of the United Nations Commission on the Status of Women, ‘ Accelerating the Achievement of Gender Equality and the Empowerment of All Women and Girls by Addressing Poverty and Strengthening Institutions and Financing with a Gender Perspective,’ and presented online on October 3, 2023. [招待]

Yamamoto Yumiko. “ Estimating Unpaid Care Sector: An Illustration,” “ Paid Caregivers and the Market for Care,” and “ Social, Labor and Care Policies,” facilitator at the Care Work and the Economy with Gender-Aware Macroeconomic Models Intensive Virtual Course in Gender-Sensitive Macroeconomic Modeling for Policy Analysis, July 1-2, 2021. [招待]

Yamamoto Yumiko, “ Fiscal Space and Mobilizing Financing for Strategies to End Women 's Poverty,” presented at the Asia-Pacific Consultation on the UN CSW68, February 6, 2024. [招待]

6 . 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------